

# 政活費で切手不明確

## 市川市議会 百条委が報告書

政務活動費で市川市議の一部が切手を大量に購入した件を調べていた市議会百条委員会は23日、報告書を取りまとめた。切手を使って本当に市民アンケートを行ったかについて、明確な結論を示せなかった。一方、捜査権がない調査に限界を認めた上で、「理解しがたい対応」「協力的とは思われない」などの表現で調査対象の市議を批判した。

「黒と言える完全な証拠を見いだすことはできなかったが、一方で身の潔白を証明することもできなかった」。17日にあった百条委で委員長松井努市議は、報告書の取りまとめにあたりこう述べた。

調査したのは小泉文人市議(43)、元市議の鈴木啓一氏(74)が2011～13年度に実施したという8件のア

ンケートだ。百条委設置を決めた15年6月の決議では、このうちの12年度アンケートが会派として行った政務活動なのに、当時同じ会派の他の市議3人は回答用はがきを1枚も見なかった。集計結果の説明も受けていない、と問題点を指摘した。

百条委では、小泉市議への尋問などを踏まえ、①ア

ンケートの印刷代の領収書が小泉氏が役員を務める休眠会社名義②集計結果の適正性③比較的大規模のアンケートにもかかわらず、8回中4回の回答率が9割以上と高い④切手の換金に関する小泉氏の発言——など18項目を検証。委員長を除く14人全員の見解が一致したのは6項目だった。

それでも17回目の7月25日の百条委では、半数を越す委員がアンケートは実施されなかった可能性が高いと表明。23日に固まった報告書には「数々の不自然かつ不誠実といわざるを得ない態度などを鑑みて『アンケートが本当に実施された』などとは到底考えられ

とはできない、といった心証を形成した委員が多い」との一文が入った。

同市議会では市議1人に月額8万円の政務活動費を支給。小泉、鈴木の両氏は11～13年度の6回のアンケートで3万8千枚の切手を購入していたことが判明した。

(長屋護)